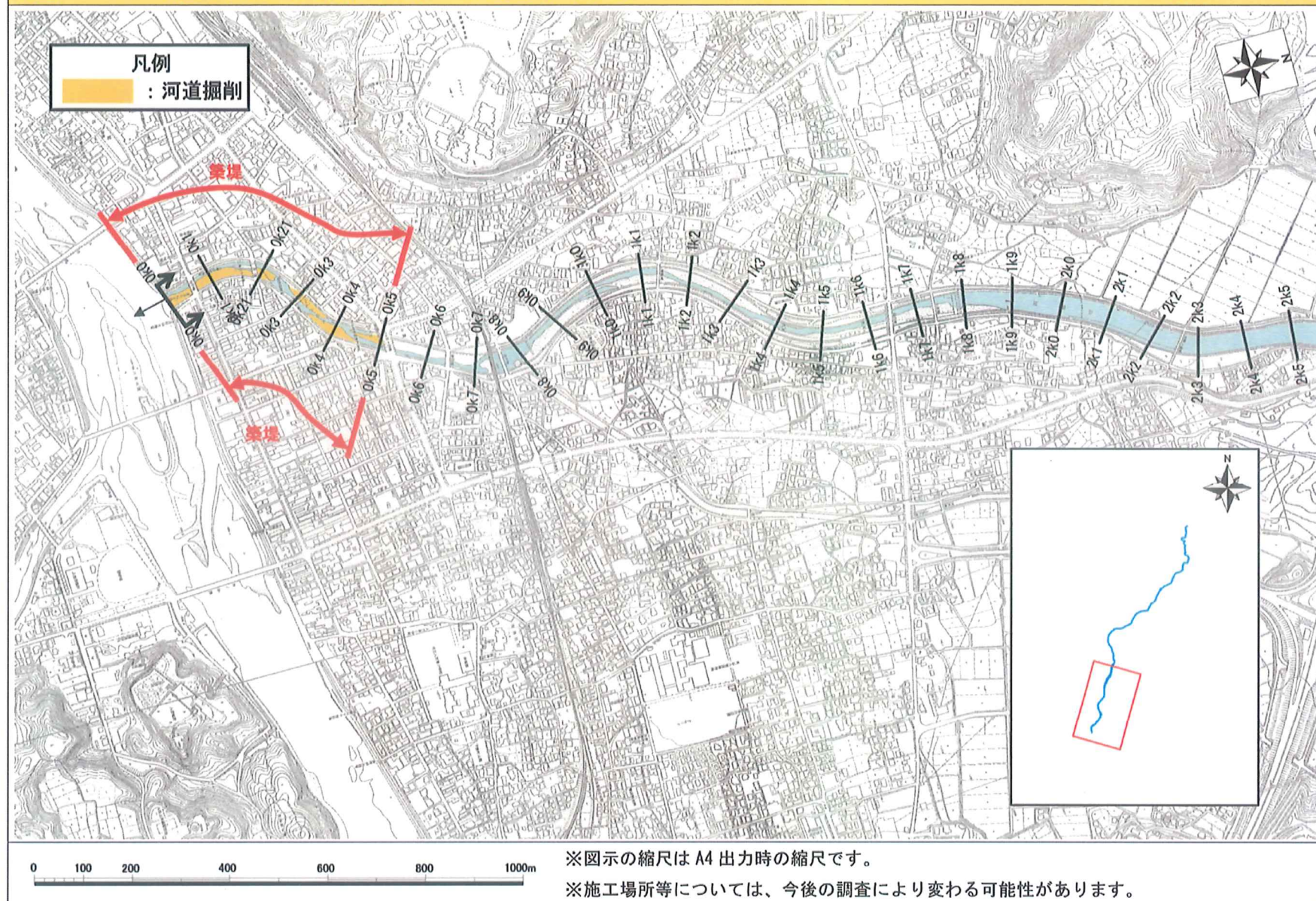


付図 1-17 河道の整備に係る施行の場所 (人吉圏域 山田川 0.0km~2.5km)

縮尺 : 1 : 10,000



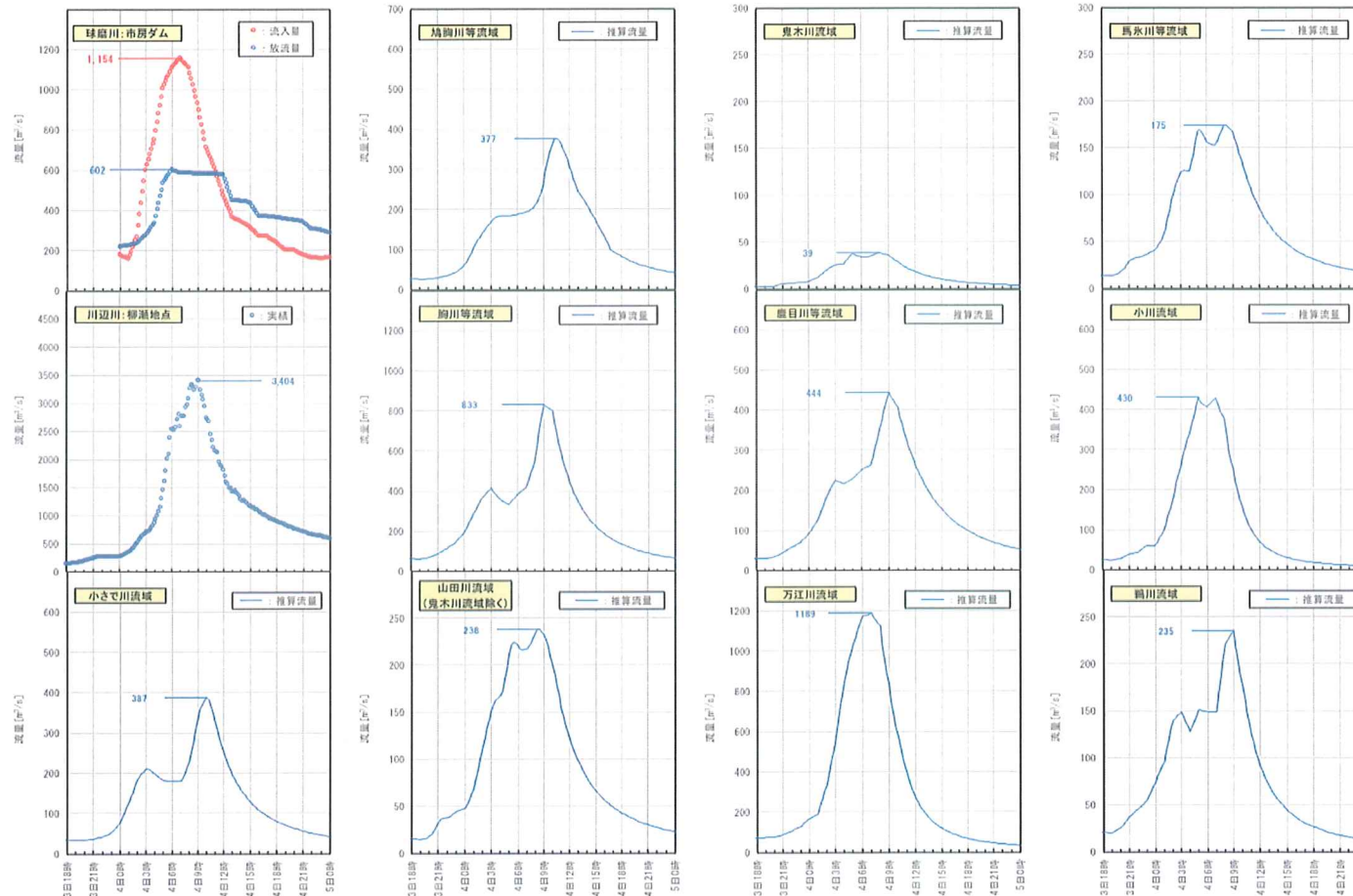
付図-43

出典 熊本県 球磨川水系河川整備計画[県管理区間](令和4年8月9日策定)付図 1-17

令和6年6月13日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子

資料1

○氾濫解析に与えている境界条件(貯留関数より算出)について、人吉観測所付近の主な支川の流量波形は以下のとおり。



※本資料の数値は「暫定値」であり、今後変更の可能性がある。

出典 国土交通省八代河川国土事務所 球磨川流域治水協議会・令和2年7月球磨川豪雨検証委員会 参考資料(1/2)

「流量の推定について」(令和2年10月20日)14頁

令和6年6月13日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子

資料 2

豪雨被災の肥薩線 鉄道で復旧へ

赤字路線 熊本県利用策をJR側受け入れ

2020年7月の豪雨で被災したJR肥薩線の不通区間のうち、熊本県の八代―人吉間を鉄道で復旧させる基本方針について3日、県とJR九州、国の3者が検討会議で合意した。大規模に被災した鉄道の路線が復旧するのは、JRでは東日本の只見線以来、33年度の運行再開を目指すという。

八代―人吉 33年度目標



倒壊したJR肥薩線の鎌瀬駅近くの球磨川第一橋梁＝2020年7月、熊本県八代市



肥薩線は延長124・2キロのうち、八代―人吉間の88・8キロで運休が続くが、このうち八代―人吉（51・8キロ）が復旧する。
JR九州は不通区間全体の復旧費を約235億円と見込む。橋桁が複数流失していることから、河川整備事業など運休させる形で国が200億円近くを負担、熊本県内の沿線12市町村の負担は、JR九州の負担は約25億円の見通し。自治体が駅や線路などの鉄道施設を所有・管理し、JRが運行を担う上下分離方式を採用する。県は昨年12月、人口減少の加速も踏まえつつ日常利用の促進を図り、観光資源の魅力を最大限に生かす、なごとした復興鉄道の復活を切望。「日

常利用の促進を」と求めるJR側に対しては、県や市町村職員の積極的な利用や、地域住民が生活の移動手段として使い「マイレール意識を持つ」などの具体策を掲げた。サポーター制度の創設や、ふるさと納税を活用した寄付募集なども復興案にあがった。これらで利用者の日常利用割合（通学約13％、通勤約3％）のアップをめざす。JR九州の松下琢磨常務は「日常利用の施策や持続可能性について一定のめどが立った」と述べた。熊本県の蒲島郁夫知事は「肥薩線の復旧は創造的復興として大事になる」と語った。

収支厳しい先例「地元は覚悟を」

近年、被災で長期にわたって運休が続く鉄路が相次いでいる。そのなか

で、上下分離方式でJRの路線を復旧させた先例といえるのが、「秘境路線」として人気のJR東日本の只見線（福島・新潟県）だ。

年約3億円の運行経費は自治体が担うが、22年度の只見線の三つの線区別収支はいずれも赤字。100円の運賃収入を得るのに3888円かかる区間もある。

2011年の豪雨で一部区間（27・6キロ）が不通となり、11年後の22年10月に復旧。約80億円の復旧費は福島県と会津地方の17市町村、国、JR東

一方、線路の敷地だったところにバスを走らせるBRT（バス高速輸送システム）に転換したり、廃線になったりした路線もある。17年の九州北部豪雨で被災したJR九州の日田彦山線（福岡

（池田良 江口博 報道班）

■被災したJRなどの主な路線	
JR日高線	2015年高波 北海道 21年廃線
JR岩手線	10年土砂崩れ 岩手県 14年廃線
JR大船渡線	11年東日本大震災 岩手、宮城県 13年BRT転換
JR気仙沼線	11年東日本大震災 宮城県 12年BRT転換
JR只見線	11年豪雨 福島、新潟県 22年復旧
のと鉄道七尾線	24年能登半島地震 石川県 6日全線再開予定
大井川鉄道	22年台風 静岡県 運休
JR美祿線	23年豪雨 山口県 運休
JR日田彦山線	17年豪雨 大分、福岡県 23年BRT転換
高千穂鉄道	05年台風 宮崎県 08年廃線
JR肥薩線	20年豪雨 熊本県など 33年度ごろ復旧方針
南阿蘇鉄道	16年熊本地震 熊本県 23年復旧

・国土交通省、鉄道局への取材から

令和2年7月豪雨によるJR九州肥薩線の主な被害・復旧に向けた取り組み 国土交通省

発生日：令和2年7月4日(土)

運休区間：八代駅～吉松駅間(86.8km)

主な被害：球磨川第1橋りょう 橋桁流失・橋脚損傷

第二球磨川橋りょう 橋桁流失

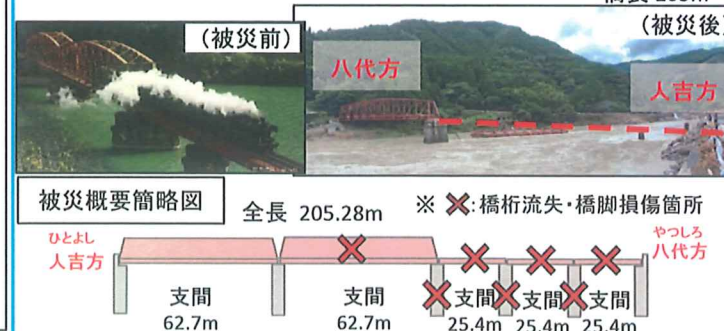
復旧に向けた取り組み

- ・R4.3.22 第1回JR肥薩線検討会議 ・R5.12.13 第5回JR肥薩線検討会議
- ・R4.5.20 第2回JR肥薩線検討会議 ・R6. 2.13 第6回JR肥薩線検討会議
- ・R4.12.6 第3回JR肥薩線検討会議 ・R6. 4. 3 第7回JR肥薩線検討会議
- ・R5.6.28 第4回JR肥薩線検討会議

復旧費用：約235億円(河川及び道路と事業間連携により約76億円に圧縮)

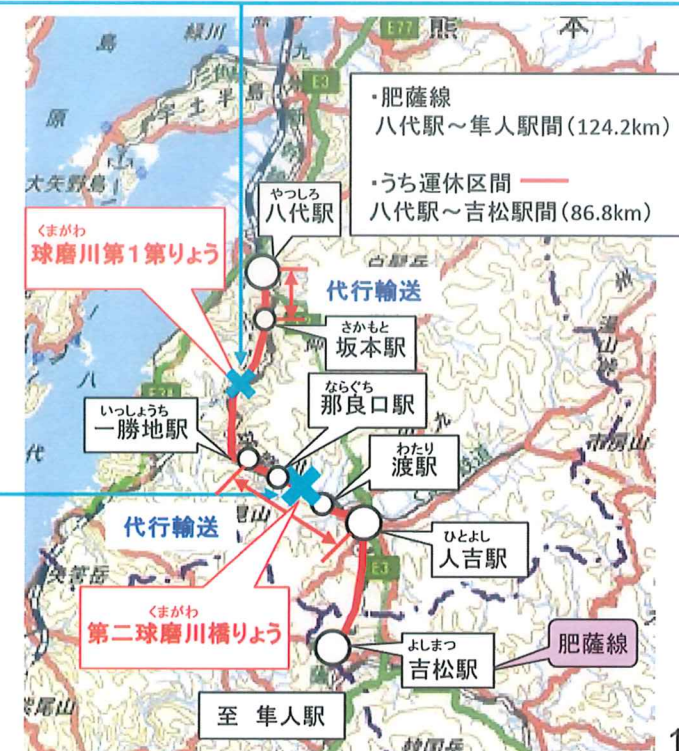
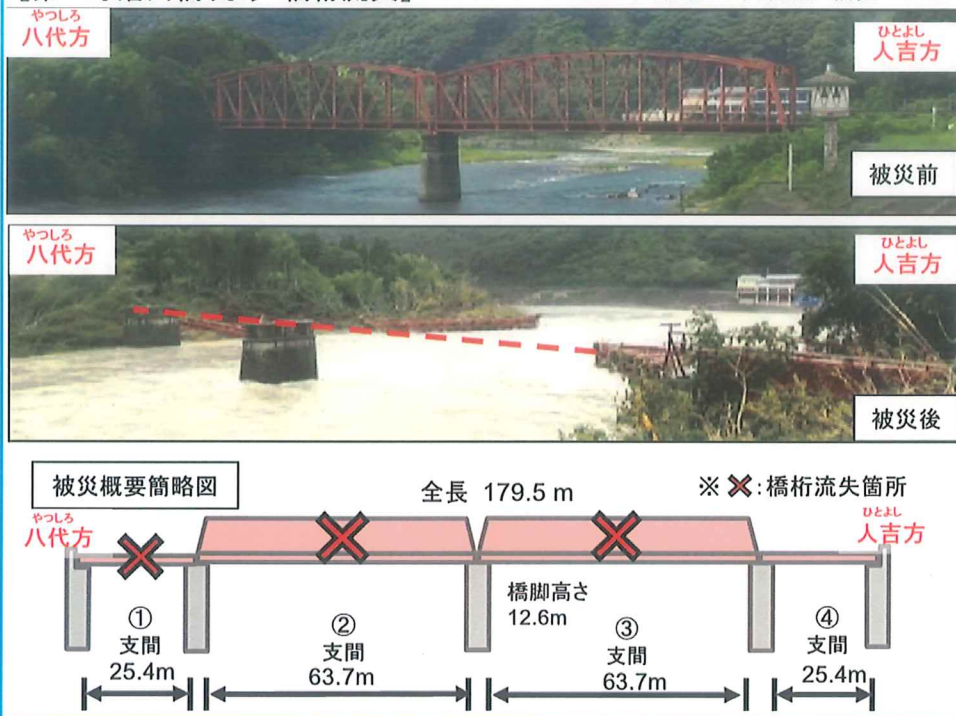
【球磨川第1橋りょう 橋桁流失・橋脚損傷】

1908年完成
橋長 205m



【第二球磨川橋りょう 橋桁流失】

1908年(明治41年)完成 橋長 179m



出典 国土交通省鉄道局提供資料(令和6年6月11日)

令和6年6月13日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子

資料4



図 12 瀬戸石ダムの洪水吐ゲートを通過する際に低下する放流水の水面。(a) 上流側から、(b) 下流側から（写真提供：村山嘉昭氏，2020 年 7 月 17 日撮影） 矢印：水の流れの方向



図 18 Google Earth Pro (©2022 Google LLC) による瀬戸石ダム周辺の衛星画像。撮影日 2022 年 5 月 19 日，Image ©2022 TerraMetrics

出典 堤裕昭・上村雄一

「【記録】令和 2 年 7 月豪雨発生、球磨川下流域の瀬戸石ダムおよびその周辺域でどのようなことが起きたのかを振り返る」

『不知火海・球磨川流域圏学会誌 第 16 巻第 1 号 12 月(2022)』（令和 4 年 12 月 30 日）28 頁、35 頁

令和 6 年 6 月 13 日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子

資料 5-①



図14 2020年7月4日10:41, 地球観測衛星SPOT-7号⁴³⁾によって撮影された球磨川の球磨郡球磨村神瀬より八代市荒瀬に至る区間の画像(10 x 10 km) (© Airbus DS(2022)).

(a) 全体画像、(b) 瀬戸石ダムおよびその周辺域のクローズアップ画像、左上には、比較するために令和2年7月4日15:19に撮影された航空写真(図10(b))³⁸⁾を示す。

- ①ダム下流側右岸：塊状の植物
- ②各構造物画像の手前側(写真の下側)に生じた影
- ③ダム下流側右岸：岸から突出した構造物
- ④ダム上流側右岸：白い線状のガードレール?
- ⑤ダム上流側右岸：四等三角点の設置場所
- ⑥ダム堤体下流側：堤体の水面から露出した部分
- ⑦ダム堤体上流側：通路橋に衝突して跳ね返った水
- ⑧ダム堤体近傍左岸側の冠水した道路
- ⑨ダム堤体右岸の道路と接続する場所付近：この場所を起点に貯水池で発生した扇状の波紋



出典 堤裕昭・上村雄一

「【記録】令和2年7月豪雨発生、球磨川下流域の瀬戸石ダムおよびその周辺域でどのようなことが起きたのかを振りかえる」

『不知火海・球磨川流域圏学会誌 第16巻第1号12月(2022)』(令和4年12月30日) 30頁

令和6年6月13日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子

資料5-②

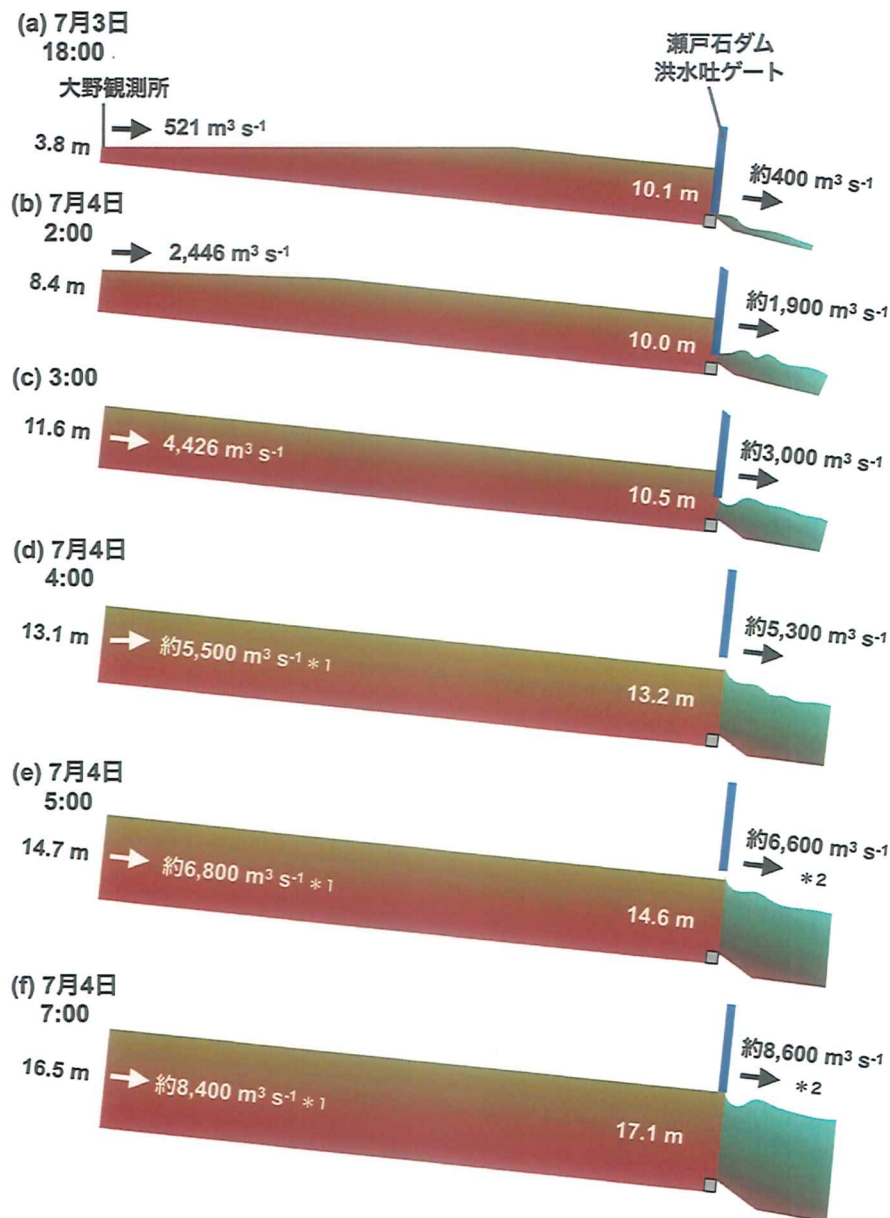


図 15 令和 2 年 7 月豪雨発生時（2020 年 7 月 3 日 18:00 ～ 4 日 7:00）の瀬戸石ダム貯水池上流端への流入量、放流量および水位の変化に関する模式図。 (a) 2020 年 7 月 3 日 18:00, (b) 7 月 4 日 2:00, (c) 3:00, (d) 4:00, (e) 5:00, (f) 7:00. 出典 大野水位観測所の河川流量および水位：国土交通省、水文（水質）データベース²⁰⁾、瀬戸石ダム貯水池の水位および放流量：電源開発株式会社（2021a）¹⁰⁾に掲載されたグラフからの読み取り値、*1 7 月 4 日 4:00 ～ 7:00 の大野水位観測所の河川流量は本報の推定値、*2 7 月 4 日 5:00 および 7:00 の瀬戸石ダム放流量は電源開発株式会社（2021a）¹⁰⁾による推定値。

出典 堤裕昭・上村雄一

「【記録】令和 2 年 7 月豪雨発生、球磨川下流域の瀬戸石ダムおよびその周辺域でどのようなことが起きたのかを振りかえる」『不知火海・球磨川流域圏学会誌 第 16 巻第 1 号 12 月（2022）』（令和 4 年 12 月 30 日）32 頁

令和 6 年 6 月 13 日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子



瀬戸石ダム下流左岸

(2013 年 3 月)



瀬戸石ダム下流左岸

上の(a)とほぼ同じ場所

(2022 年 8 月)



瀬戸石ダム上流右岸

(2020 年 8 月)



瀬戸石ダム上流右岸

(2020 年 8 月)

出典 堤裕昭・上村雄一

「【記録】令和 2 年 7 月豪雨発生、球磨川下流域の瀬戸石ダムおよびその周辺域でどのようなことが起きたのかを振りかえる」『不知火海・球磨川流域圏学会誌 第 16 巻第 1 号 12 月(2022)』

(令和 4 年 12 月 30 日) 37 頁をもとに、嘉田事務所で作成

令和 6 年 6 月 13 日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子

資料 7

瀬戸石ダム・発電所の状況について（2021 年 2 月付）

当社瀬戸石ダム・発電所（熊本県葦北郡芦北町・同球磨郡球磨村）について、今般、ダム・河川に係る調査が終了したことから、その結果などをご報告いたします。

今回の調査結果として、（１）ダムの安全性に問題はないこと、（２）ダム放流操作が適正に行われたこと、（３）ダムの影響により水位が大きく上昇した事実は認められないこと、などを確認いたしました。

当社は、球磨川流域で国、熊本県、流域市町村が取り組む「緑の流域治水」の実現に向け、治水協定に基づく事前放流の実施、調整池内の堆積土砂の計画排除、ダム情報伝達強化など、今後も球磨川流域の皆さまの安全・安心のために必要な対応や改善を継続しながら、ダム・発電所の設備の保安に万全を期すとともに、情報提供に努めてまいります。

1. 瀬戸石ダム・発電所に係る状況などについて 【資料 1】

（1）瀬戸石ダム 【資料 2】

ダムに関しては、河川砂防技術基準（※１）に基づく調査などを実施し、安全性に問題はないことを確認いたしました。

なお、ダムは、現在も洪水吐ゲートの一部を除き全開状態（フルオープン）を継続しております。

（※１）国土交通省 水管理・国土保全局

（2）ダム放流操作 【資料 3・資料 4】

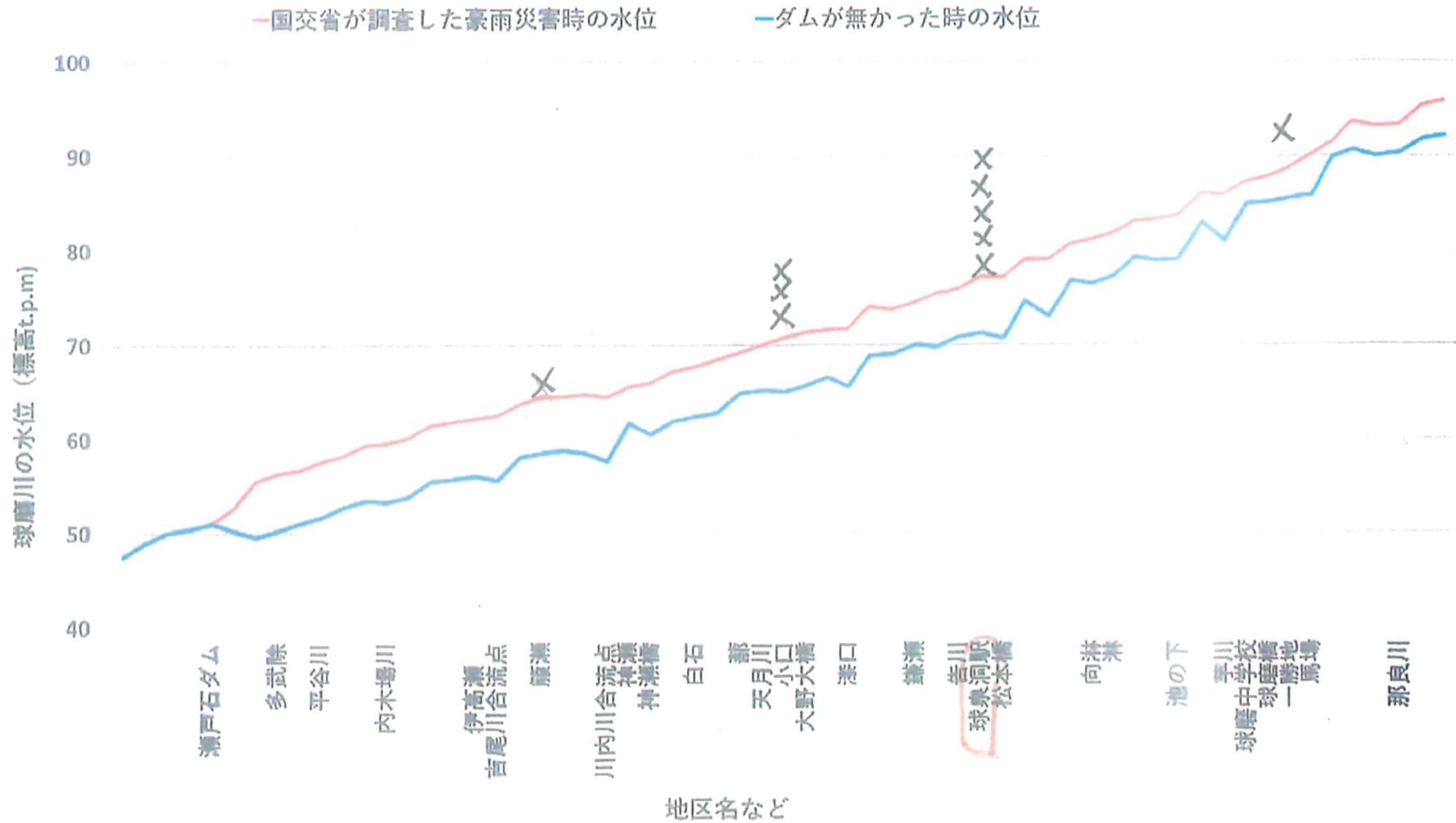
今回の豪雨では、過去に経験したことがない大規模かつ急激な流入がダム地点で観測されました。これに対して適正な放流操作を実施し、ダムからの放流量が流入量を上回っていないことを確認いたしました。

今後は、今回以上の事象が発生した場合においても、適切な放流操作ができるようダム操作体制の強化を図ってまいります。

（3）豪雨時の流量推定 【資料 3・資料 5】

今回豪雨時の瀬戸石ダム地点におけるピーク流量は、当社による洪水痕跡調査の結果などから、約 10,000 m³/秒と推定しております（※２）。ピーク流量時において、ダム下流の狭窄部からダム地点までに水位が徐々に上昇したことを確認いたしました。また、ダム地点においても水位上昇は確認されましたが、ダムの影響により水位が大きく上昇した事実は認められませんでした。

豪雨災害時の瀬戸石ダム上流の水位

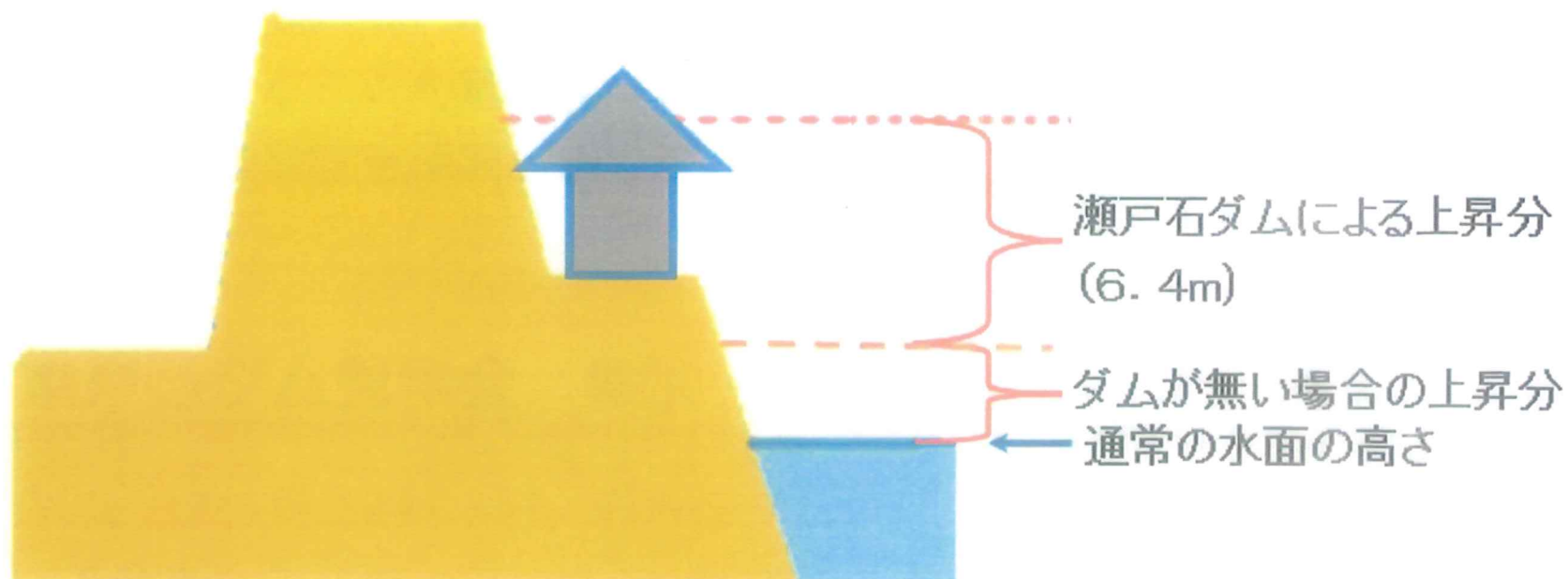


×印:溺死者

出典 令和6年5月6日『瀬戸石通信 第12号』(瀬戸石ダムを撤去する会) 1頁 掲載資料

令和6年6月13日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子

2020年7月4日豪雨災害時の水位 上昇のイメージ図(球泉洞駅地点)



出典 令和6年5月6日『瀬戸石通信 第12号』(瀬戸石ダムを撤去する会) 2頁 掲載資料

令和6年6月13日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子

資料 10

2024 年 6 月 10 日

長崎県知事 大石 賢吾 様

石木ダム事業の公正な再評価を求める市民の会
共同代表 深澤 奨、南 輝久

令和 6 年度長崎県公共事業評価監視委員会についての要請書

石木ダム事業の完成予定工期が迫り、仮排水路工事やダム本体コンクリート打設が目前に迫っている中、令和 6 年度長崎県公共事業評価監視委員会は事業費改定や工期についての審議が行われることが想定される極めて重要な委員会である。

一方で、水没予定地において生活されている方々は依然としてダムの必要性について納得されておらず、また事業認定に係る最高裁判断以降に新たに明らかになった事実（ダム計画に必要な雨量や流量観測の一部を行なっていなかった等）について治水、利水等の専門家から疑義が示されている。

また、これまでの石木ダム事業評価監視委員会審議において、委員から「専門家でないので出された情報をどう読み取っているのか、能力が足りないので、今後の検討においては是非専門家を交えていただきたい」との意見が出されている。委員からの佐世保市水道事業についての質問に対しても、的確な回答ができなかった事例も生じている。

さらに、石木ダム事業は治水事業と新規水道用水事業の多目的事業であり、水道用水の必要性に応じてダム規模やコストアロケーションに影響がでてくるため、本来事業再評価監視委員会においても治水事業と水道事業を併せて審議することが望ましいのであるが、治水事業は国交省、水道事業は厚労省と所管が異なるため実現できなかった。しかし本年 4 月より水道事業を国交省が所管することとなったことから、両事業を国交省所管事業として併せて審議することが望ましい。

上記を踏まえ、今回の長崎県公共事業評価監視委員会において、専門家を交えた公明正大な審議が行われ、水没予定地在住住民を始め多くの県民の理解を得るために、以下の事項の実現を強く要望する。

- 1、治水事業と新規水道用水事業を併せて審議することとし、佐世保市水道担当者の委員会出席を要請すること
- 2、委員として下記の専門家の任命を行なうこと
(治水) 今本 博健（京都大学名誉教授・河川工学・防災）
宮本 博司（元国交省近畿地方整備局淀川河川事務所長）
(利水) 富樫 幸一（岐阜大学教授・地域科学・水資源政策）
伊藤 達也（法政大学教授・環境学・水資源）
(環境) つる 祥子（環境カウンセラー）

尚、この要請へのご回答は 6 月 28 日（金）までに下記連絡先へ送付いただきますよう、
よろしくお願いいたします。

以上

出典 石木ダム事業の公正な再評価を求める市民の会

「令和 6 年度長崎県公共事業評価監視委員会についての要請書」(2024 年 6 月 10 日)

令和 6 年 6 月 13 日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子

資料 11

2024 年 6 月 10 日

佐世保市長 宮島 大典 様

石木ダム事業の公正な再評価を求める市民の会
共同代表 深澤 奨 南 輝久

令和 6 年度石木ダム事業再評価についての要請書

石木ダム事業の完成予定工期が迫り、仮排水路工事やダム本体コンクリート打設が目前に迫っている中、令和 6 年度石木ダム再評価は事業費改定や工期についての審議が行われることが想定される極めて重要な再評価である。

一方で、水没予定地において生活されている方々は依然としてダムの必要性について納得されておらず、また事業認定に係る最高裁判断以降に新たに明らかになった事実等について治水、利水等の専門家から疑義が示されている。

さらに、石木ダム事業は治水事業と新規水道用水事業の多目的事業であり、本来公共事業監視委員会において治水事業と水道事業を合わせて審議することが望ましいのであるが、治水事業は国交省、水道事業は厚労省と所管が異なるため実現できなかった。

しかし本年 4 月より水道事業は国交省が所管することとなったことから、両事業を国交省所管事業として併せて審議することが適切である。

上記を踏まえ、今回の石木ダム再評価は、県と佐世保市が一体となって、水没予定地在住住民を始め多くの県民の理解を得るために、専門家も交えた公明正大な審議が行われるよう、以下の事項の実現を強く要望する。

1. 佐世保市水道施設整備事業（石木ダム）の再評価は、今年度からは県公共事業評価監視委員会に審議を依頼すること
2. 同委員会に佐世保市水道局担当者が出席し、事業者として説明すること

尚、この要請へのご回答は 6 月 28 日（金）までに下記連絡先へ送付いただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上

【連絡先】 石木ダム事業の公正な再評価を求める市民の会事務局
長崎県大村市富の原 2-15-2
メール toto29@kd6.so-net.ne.jp
携 帯 090-7456-2929（井上敏彦）
FAX 095-870-3034

出典 石木ダム事業の公正な再評価を求める市民の会

「令和 6 年度石木ダム事業再評価についての要請書」（2024 年 6 月 10 日）

令和 6 年 6 月 13 日 参議院国土交通委員会 日本維新の会・教育無償化を実現する会 嘉田由紀子
資料 12